

(9) パッションフルーツ
ア 殺菌剤, イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード F:殺菌 I:殺虫	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項	
			円 斑 病	疫 病	ゆ 合 促 進	カ イ ガ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ハ ダ ニ 類						
< 殺 菌 剤 >														
アミスター10フロアブル	アゾキシストロビン	F:11	◎	◎										
アリエッティ水和剤	ホセチル	F:P07		◎										
ダコニール1000	TPN	F:M05	◎	◎										
トップジンMペースト	チオファネートメチル	F:1				果								果:【果樹類登録】
< 殺 虫 剤 >														
アドマイヤー顆粒水和剤	イタダカプロット	I:4A						◎						
アタックオイル	マシン油	I:UNM							◎					使用時期: 収穫後~開花期(発蕾期)
アプロードフロアブル	アプロフェジン	I:16				幼								幼:【幼虫に適用】
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリト	I:4A					◎							

ウ 病虫害防除法（パッションフルーツ）

（ア）円斑病 *Septoria passifloricola*

（防除のねらい）

葉，果実に発生し，葉では黄色のハローを伴う褐色円形の斑点を生じる。条件により褐色斑点上には後に微小黒点を形成し，落葉しやすい。果実でも淡褐色の円形の斑点を生じ，後に大型不整形斑となるが症状は果実表面にとどまる。露地栽培，ハウス栽培いずれでも発生する。

（耕種的防除法）

- （１）過繁茂にならないように茎葉を整枝する。
- （２）ほ場の通気，排水を良くする。

（イ）疫 病 *Phytophthora nicotianae*

（防除のねらい）

茎葉，果実に発生し，茎葉では水浸状斑点を生じ，後に枯れ上がる。果実でも飴色水浸状の斑点を生じ，拡大後落果する。まれに株元にも発生し，急性萎凋を引き起こす。降雨との関連性が高く，４月以降の降雨後，発病が見られる。また，地際部に近いほど発生が多い傾向にある。

（耕種的防除法）

- （１）茎葉を地際から離し，風通しが良くなるように整枝する。
- （２）ほ場の排水を良くする。

（ウ）立枯症状

（防除のねらい）

地際から数10cm位までの茎に発生し，腐敗する。植え付けから２～３年で発生が多く見られ，着果肥大後発生すると樹木が急激に萎凋し枯死する。病原菌として，主に *Fusarium* 属菌が考えられている。

（耕種的防除法）

- （１）地際部の茎に傷を付けないように栽培管理する。
- （２）株もとを根が見える位まで露出させ，多湿にならないようにする。

（エ）ウディネス病 EAPV（トケイソウ東アジアウイルス）

（防除のねらい）

病原ウイルスは罹病株からの採苗によって広がるほか，アブラムシ類が媒介し伝染する。また，接ぎ木でも容易に伝染する。

健全株に植え替える場合は，罹病株からの再感染を防ぐため，ほ場単位で実施することが大切である。さらに，広域で一斉に植え替えることにより，高い防除効果を得ることができる。

（耕種的防除法）

- （１）健全苗を植える。
- （２）罹病株は早めに除去する。
- （３）アブラムシ類の飛来を防ぎ，防除を徹底する。

（オ）カイガラムシ類

（防除のねらい）

ミカンコナカイガラムシ，フジコナカイガラムシなどが知られており，一般に施設栽培での発生が多い。密度が高まるとすす病を併発し樹勢低下を招く。成虫は体表面にロウ物質を形成し農薬の効果が劣ることから，ロウ物質が少ない若齢幼虫期での防除が効果的である。

（耕種的防除法）

苗での持ち込みに注意し，少発生なら捕殺する。

(カ) アザミウマ類

(防除のねらい)

開花期前後に子房を加害することで果実が変形するハナアザミウマや、葉・果実にカスリ状の被害を突発的に与えるクリバネアザミウマ（侵入害虫）などの被害があり、品質に与える影響が大きい。両種ともに一旦定着すると増殖率が高いので初期防除を実施する。

(耕種的防除法)

- (1) 苗からの持ち込みがないよう注意する。
- (2) 周辺環境整備に努め、雑草等からの侵入を防ぐ。

(キ) ハダニ類

(防除のねらい)

葉の被害はかすり状を呈する。奄美大島では平成13年にナンセイハダニの被害が確認されており、今後も発生に注意を要する。ハウスでの発生が多いが、ナンセイハダニのほかに施設栽培においては、ミナミヒメハダニが発生する場合がある。

(ク) アブラムシ類

(防除のねらい)

飛来する有翅アブラムシ類は春季と秋季に多い傾向があり、春季のほうが飛来数は多い。EAPVを媒介するアブラムシでは、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、チシャミドリアブラムシは春季に多く、トウモロコシアブラムシは秋季に多い傾向がある。